

### 3 経営成績

#### (1) 概況

損益の状況は第3表のとおりである。

当年度は、総収益259億48万円、総費用238億3,876万円、純利益20億6,171万円の純利益となったが、前年度に比べて、9億1,327万円減少している。

経常損益については、当年度に特別利益、特別損失が発生しなかったことから、経常収益、経常費用、経常利益ともに総収益、総費用、純利益と同額である。経常収益率は前年度より4.0ポイント低下し、108.6%となっている。

当年度末の未処理欠損金については、純利益20億6,171万円を計上したことで、前年度末の58億790万円から37億4,618万円に減少している。

第3表 損 益 の 状 況

(単位 金額：千円 比率：%)

年 度	総 収 益 (A)		総 費 用 (B)		差 引 損 益 (A) - (B)	収 益 率 $\frac{(A)}{(B)}$	未 処 分 利 益 剰 余 金 又 は 未 処 理 欠 損 金 (△) (C)	未 処 理 欠 損 金 比 率 $\frac{(C)}{\text{医業収益}}$
	決 算 額	す う 勢 比 率	決 算 額	す う 勢 比 率				
29	( 22,103,958 )	( 100.0 )	( 23,188,930 )	( 100.0 )	( △ 1,084,971 )	( 95.3 )	△ 9,796,398	49.8
	22,674,259	100.0	23,188,930	100.0	△ 514,671	97.8		
30	( 23,270,740 )	( 105.3 )	( 23,361,731 )	( 100.7 )	( △ 90,990 )	( 99.6 )	△ 9,297,351	44.7
	23,860,777	105.2	23,361,731	100.7	499,046	102.1		
元	( 24,238,823 )	( 109.7 )	( 24,157,115 )	( 104.2 )	( 81,708 )	( 100.3 )	△ 8,782,897	40.1
	24,671,569	108.8	24,157,115	104.2	514,454	102.1		
2	( 26,533,999 )	( 120.0 )	( 23,559,008 )	( 101.6 )	( 2,974,991 )	( 112.6 )	△ 5,807,905	32.6
	27,225,148	120.1	24,250,157	104.6	2,974,991	112.3		
3	( 25,900,484 )	( 117.2 )	( 23,838,766 )	( 102.8 )	( 2,061,717 )	( 108.6 )	△ 3,746,188	20.4
	25,900,484	114.2	23,838,766	102.8	2,061,717	108.6		

(注) 1 ( ) 内は、特別利益、特別損失がある場合に、これを除いて算出したものである。

(2) 経常収益・経常費用の内訳

経常収益・経常費用の内訳は、第4表及び第1図のとおりである。前年度に比べ、経常収益は6億3,351万円減少し、経常費用は2億7,975万円増加したことから、経常損益は前年度の29億7,499万円の利益から9億1,327万円減少し、20億6,171万円の利益となった。

第4表 経常収益・経常費用の内訳

(単位 金額:千円 比率:%)

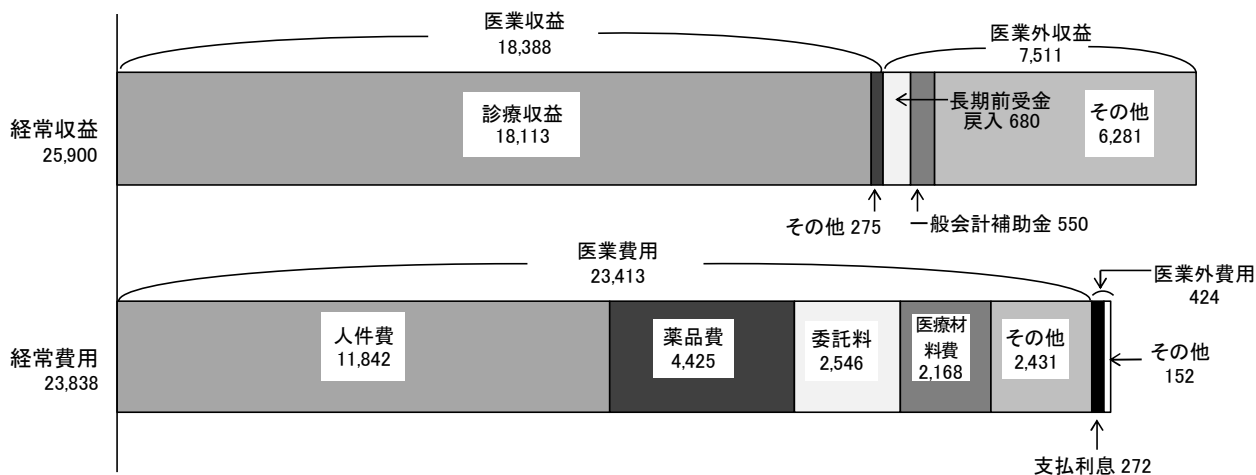
科 目	3 年 度		2 年 度		対 前 年 度 比 較		すう 勢 比 率 (29 年 度 = 100)			
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率	3 年 度	2 年 度	元 年 度	30 年 度
【 経 常 収 益 】										
診 療 収 益	18,113,465	69.9	17,571,436	66.2	542,028	3.1	95.0	92.2	112.0	105.7
(入院収益分)	(12,231,579)	(47.2)	(11,750,333)	(44.3)	(481,245)	(4.1)	93.3	89.6	116.3	105.2
(外来収益分)	(5,881,885)	(22.7)	(5,821,103)	(21.9)	(60,782)	(1.0)	98.9	97.8	102.6	106.9
そ の 他 医 業 収 益	120,356	0.5	110,091	0.4	10,264	9.3	62.9	57.5	97.6	94.9
一 般 会 計 負 担 金	422,940	1.6	465,190	1.8	△ 42,250	△ 9.1	32.0	35.2	89.8	103.2
一 般 会 計 補 助 金	550,328	2.1	585,132	2.2	△ 34,804	△ 5.9	94.3	100.2	98.1	105.1
長 期 前 受 金 戻 入	680,014	2.6	607,498	2.3	72,515	11.9	109.7	98.0	96.4	98.1
そ の 他	6,013,379	23.2	7,194,649	27.1	△ 1,181,269	△ 16.4	☆	☆	104.8	106.9
(感染症病床確保促進事業費補助金)	(5,576,298)	(21.5)	(6,629,046)	(25.0)	(△ 1,052,748)	(△ 15.9)	-	-	-	-
再 計 医 業 収 益	18,388,675	71.0	17,803,926	67.1	584,749	3.3	93.5	90.5	111.3	105.8
再 計 医 業 外 収 益	7,511,808	29.0	8,730,073	32.9	△ 1,218,265	△ 14.0	308.1	358.1	96.2	101.0
計	25,900,484	100.0	26,533,999	100.0	△ 633,515	△ 2.4	117.2	120.0	109.7	105.3
【 経 常 費 用 】										
人 件 費	11,842,433	49.7	11,678,399	49.6	164,034	1.4	102.8	101.4	99.6	98.5
薬 品 費	4,425,497	18.6	4,345,982	18.4	79,514	1.8	121.0	118.9	124.4	106.0
医 療 材 料 費	2,168,293	9.1	2,037,065	8.6	131,228	6.4	99.3	93.3	111.3	105.9
委 託 料	2,546,407	10.7	2,468,658	10.5	77,749	3.1	114.4	110.9	111.7	104.9
修 繕 費	203,616	0.9	211,782	0.9	△ 8,166	△ 3.9	85.2	88.6	98.8	142.7
減 価 償 却 費	1,267,157	5.3	1,220,741	5.2	46,416	3.8	88.8	85.6	93.3	98.7
支 払 利 息	272,486	1.1	347,682	1.5	△ 75,195	△ 21.6	48.8	62.3	75.4	88.0
そ の 他	1,112,874	4.7	1,248,696	5.3	△ 135,822	△ 10.9	80.6	90.5	89.4	90.4
再 計 医 業 費 用	23,413,973	98.2	22,936,837	97.4	477,136	2.1	104.2	102.1	104.9	101.1
再 計 医 業 外 費 用	424,793	1.8	622,170	2.6	△ 197,377	△ 31.7	58.8	86.2	80.9	89.1
計	23,838,766	100.0	23,559,008	100.0	279,758	1.2	102.8	101.6	104.2	100.7
経 常 損 益	2,061,717	-	2,974,991	-	△ 913,273	△ 30.7	190.0	274.2	7.5	△ 8.4

(注) 1 本表の件費には厚生福利費を含むため、病院事業会計決算書の給与費とは異なる。また、医療材料費には医療消耗備品費を含む。(以下、本意見書について同じ。)

2 経常損益に係るすう勢比率については、比較対象年度が経常損失の場合は△で表している。数値の大きさは相対的な利益額又は損失額の大きさを示す。

第1図 経常収益・経常費用の構成

(単位 百万円)



### 【経常収益】

経常収益は259億48万円で、前年度より6億3,351万円（2.4%）減少した。

経常収益の69.9%を占める診療収益は、入院収益及び外来収益の合計では5億4,202万円（3.1%）増加し181億1,346万円となった。当年度は入院患者数が僅かながら増加したことや、高額な薬品等の使用が増えたことなどにより患者一人当たりの診療単価が増加したことから、入院収益は4億8,124万円、外来収益は6,078万円の増加となった。

一般会計負担金は、企業債支払利息に要する経費の繰入れが減少したことなどにより、4,225万円減少した。また、感染症病床確保促進事業費補助金が減少したことなどにより、その他の収益で11億8,126万円の減少となっている。

### 【経常費用】

経常費用は238億3,876万円で、前年度より2億7,975万円（1.2%）増加した。

構成割合をみると、大きい順に人件費が49.7%、薬品費が18.6%、委託料が10.7%、医療材料費が9.1%などとなっている。

増加している科目については、医療材料費が1億3,122万円（6.4%）、薬品費が7,951万円（1.8%）増加している。これは、診療収益の増加と同様の理由によりそれぞれの購入費が増加したことなどによるものである。

一方で、企業債の償還が進んだことにより支払利息は7,519万円（21.6%）、新型コロナウイルス感染症に係る雑支出の減少などによりその他の費用で1億3,582万円（10.9%）それぞれ減少している。

### 【最近5年間の推移】

経常収益は、前年度に比べるとやや減少しているが、最近5年間の推移をみると（以下、平成29年度を100として比較）、平成29年度に比べて17.2ポイントの上昇となっており、費用の増加を上回る増加割合となっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、診療収益は平成29年度に比べて5.0ポイントの低下となった一方、医業外収益のうちその他に含まれる補助金が大きく増加したことにより、経常収益全体としては増加した。

経常費用は概ね1～4ポイントほど平成29年度を上回る傾向で推移しており、当年度は2.8ポイントの上昇となっている。内訳別では、薬品費、委託料の増加が10ポイントを超えている一方、支払利息は大きく減少している。

(3) 収益性分析

利益率及び経常費用対医業収益率は、第5表のとおりである。

当年度の経常利益率（8.0%）は元年度から引き続いてプラスとなっているが、前年度に比べ3.2ポイント低下している。一方で、医業利益率（マイナス27.3%）は1.5ポイント上昇している。

過去5年間の推移をみると、経常利益率、医業利益率ともに上昇し続けていたが、2年度からは医業利益率は大幅な低下に転じた。本会計は、病院経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難な経費について、医業外収益として他会計などからの補助金を充てているため、経常利益率と医業利益率との間に大きな差があった。令和元年度まではその差を徐々に縮めていたものの、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、前年度及び当年度はその差を広げることとなった。

経常費用対医業収益率（129.6%）は前年度からは2.7ポイント低下しているが、令和元年度以前の率との比較では上昇している。

費用のうち大きな割合を占める人件費（経常費用の49.7%）は前年度に比べ増加しているものの、医業収益も増加したため、対医業収益率としては前年度から1.2ポイント低下し64.4%となっている。

**第5表 利益率及び経常費用対医業収益率**

(単位 %)

項 目	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
経常利益率	△ 4.9	△ 0.4	0.3	11.2	8.0
医業利益率	△ 14.2	△ 9.2	△ 7.7	△ 28.8	△ 27.3
経常費用対医業収益率	117.9	112.3	110.3	132.3	129.6
人件費	58.6	54.5	52.4	65.6	64.4
減価償却費	7.3	6.8	6.1	6.9	6.9
支払利息	2.8	2.4	1.9	2.0	1.5
薬品費	18.6	18.6	20.8	24.4	24.1
医療材料費	11.1	11.1	11.1	11.4	11.8
その他経費	19.6	18.9	18.1	22.1	21.0

(注) 経常利益率＝経常利益／経常収益、医業利益率＝医業利益／医業収益  
 経常費用対医業収益率＝経常費用／医業収益

(4) 人件費分析

【職員数の推移】

職員数（損益勘定所属職員。以下同じ。）は第6表のとおりである。

当年度末職員数は、前年度から29人増加し、1,151人となった。このうち看護師は27人増加している。

また、病床100床当たりの職員数については、前年度から4人増加し173.2人となっている。

なお、このほか、資本勘定所属職員として、当年度末3人（前年度から増減なし）が在籍している。

**第6表 職員数の推移**

（単位 人）

項 目		29 年 度	30 年 度	元 年 度	2 年 度	3 年 度
職 員 数	職 員	1,167	1,123	1,124	1,122	1,151
	う ち 医 師	151	163	168	165	165
	う ち 看 護 師	788	732	730	735	762
病 床 100 床 当 たり 職 員 数		158.9	152.5	169.2	169.2	173.2

- (注) 1 職員数は、年度末現在である。  
 2 上記職員のほか、当年度末では11人の非常勤職員及び364人の会計年度任用職員が在籍している。  
 3 病床100床当たり職員数は、期中平均により計算している。  
 4 看護師には准看護師を含む。

【職員1人当たり労働生産性の推移】

令和元年度までは非常勤及び臨時職員を、令和2年度からは非常勤及び会計年度任用職員を含めて計算した職員1人当たりの労働生産性について、平成29年度を100とした医業収益及び患者数のすう勢は、次のとおりである。

職員1人当たりの医業収益は、当年度は前年度と比べると0.1ポイントの低下、平成29年度との比較では、令和2年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響により10.8ポイントの大幅な低下となっている。患者数については、当年度は前年度と比べると3.8ポイントの低下、平成29年度との比較では、37.7ポイントの大幅な低下となっている。

なお、令和元年度まで、非常勤職員数を常勤換算した人数としていたが、令和2年度から会計年度任用職員制度が開始されたことに伴い、一部を除き実人数で計上することとなったことから、職員数の集計方法に違いがあるため単純に比較はできない。

**職員1人当たり医業収益・患者数のすう勢**

項 目		29 年 度	30 年 度	元 年 度	2 年 度	3 年 度
職 員 1 人 当 たり	医 業 収 益	100.0	110.3	116.2	89.3	89.2
	患 者 数	100.0	104.6	89.3	66.1	62.3

- (注) 職員数（令和元年度までは非常勤及び臨時職員を、令和2年度からは非常勤及び会計年度任用職員を含む。）は期中平均により計算している。

## 【人件費のすう勢】

平成29年度を100とした人件費のすう勢は、第7表のとおりである。

人件費（退職給付費を除く。）は、前年度に比べ2.1ポイント上昇している。給料は前年度より2.7ポイント、手当等は1.9ポイント上昇した。なお、令和2年度から非常勤職員の一部及び臨時職員は会計年度任用職員へ移行したため、報酬は大幅に減少、また、賃金は皆減し、給与に反映されている。

当年度の退職者に対する退職手当は、退職給付引当金より5億5,916万円を取り崩して支給した。なお、当年度の退職者数は117人（前年度110人）である。

### 第7表 人 件 費 の す う 勢

(単位 比率：% 金額：千円)

区 分	す う 勢 比 率 (29年度 = 100)				構成比
	30年度	元年度	2年度	3年度	
人 件 費 ( 金 額 )	99.4 (11,011,385)	100.1 (11,088,068)	100.0 (11,073,357)	102.1 (11,307,534)	100.0
給 与	99.7	100.5	110.4	112.6	83.2
給 料	98.3	98.5	116.8	119.5	43.1
手 当 等	101.1	102.5	104.2	106.1	40.0
報 酬	93.0	95.3	9.0	10.3	0.8
賃 金	109.2	96.6	-	-	-
法 定 福 利 費 等	100.9	100.7	102.2	104.0	16.0
職員1人当たり平均給与	103.9	104.9	103.1	102.4	
退 職 給 付 費 ( 金 額 )	(339,682)	(381,851)	(605,042)	(534,899)	(4.5)
退職給付引当金取崩額(金額)	(390,809)	(306,744)	(286,762)	(559,160)	

- (注) 1 人件費には退職給付費を含まない。  
 2 臨時職員は、令和2年度に創設された会計年度任用職員に含まれたことに伴い、その賃金は給与に含まれている。  
 3 法定福利費等は法定福利費と厚生福利費である。  
 4 職員1人当たり(会計年度任用職員を除く。)平均給与は、期中平均の損益勘定所属職員数により計算している。  
 5 退職給付費の構成比( )内は、総人件費(人件費と退職給付費の合算額)に占める割合である。

(5) 患者1人1日当たり収支

患者1人1日当たり経常収支の状況は、第8表のとおりである。

当年度の患者1人1日当たりの収益は67,531円、費用は62,156円であり、前年度と比べると、収益は101円(0.1%)、費用は2,287円(3.8%)それぞれ増加となったため、差引きでは前年度から2,184円悪化したものの、5,376円の利益となった。

最近5年間の推移をみると(以下、平成29年度を100として比較)、収益では、診療収益は入院・外来とも増加を続けており、当年度は平成29年度と比べて、入院収益は31.2ポイント、外来収益は58.4ポイント上昇している。一方で、費用については、人件費は57.4ポイント、薬品費は85.2ポイント、医療材料費は52.0ポイント、その他経費で53.8ポイント上昇している。

収益100円を得るのに要する費用である経常費用対経常収益は、前年度より3円25銭増加し、当年度は92円4銭となっている。

第8表 患者1人1日当たり収支

(単位 金額:円 比率:%)

区 分	3 年 度	2 年 度	増 減 額	元 年 度	30 年 度	29 年 度	すう勢比率(29年度=100)				
							3 年 度	2 年 度	元 年 度	30 年 度	
経 常 収 入	診 療 収 益	47,228	44,653	2,575	42,523	34,192	32,467	145.5	137.5	131.0	105.3
	( 入 院 )	(87,211)	(84,016)	( 3,196 )	(75,665)	(69,536)	(66,493)	(131.2)	(126.4)	(113.8)	(104.6)
	( 外 来 )	(24,177)	(22,950)	( 1,228 )	(20,306)	(16,258)	(15,260)	(158.4)	(150.4)	(133.1)	(106.5)
	そ の 他	20,303	22,776	△ 2,473	5,747	5,287	5,184	391.6	439.4	110.9	102.0
益	計	67,531	67,430	101	48,270	39,479	37,652	179.4	179.1	128.2	104.9
経 常 費 用	人 件 費	30,877	29,678	1,199	22,841	19,257	19,621	157.4	151.3	116.4	98.1
	薬 品 費	11,539	11,044	495	9,059	6,574	6,229	185.2	177.3	145.4	105.5
	医 療 材 料 費	5,653	5,177	476	4,837	3,922	3,719	152.0	139.2	130.1	105.5
	資 本 費	4,014	3,986	28	3,489	3,222	3,381	118.7	117.9	103.2	95.3
	そ の 他	10,072	9,985	87	7,880	6,658	6,550	153.8	152.4	120.3	101.6
用	計	62,156	59,869	2,287	48,107	39,633	39,500	157.4	151.6	121.8	100.3
差 引 収 支	5,376	7,560	△ 2,184	163	△ 154	△ 1,848					
経常費用対経常収益	92.04	88.79	3.25	99.66	100.39	104.91					
1日当たり	外 来	1,005	1,044	△ 39	1,253	1,603	1,598	62.9	65.3	78.4	100.3
患者数(人)	入 院	384	383	1	551	544	540	71.1	70.9	101.9	100.6

(注) 経常費用対経常収益は、収益100円を得るのに要する費用の金額を表している。(経常費用/経常収益\*100)

(6) 診療科目別1日当たり患者数

診療科目別の1日当たり患者数の状況は、第9表のとおりである。

第9表 診療科目別1日当たり患者数

(単位 患者数：人 構成比：%)

区 分	外 来				入 院			
	3 年 度	構 成 比	2 年 度	増 減	3 年 度	構 成 比	2 年 度	増 減
呼 吸 器 内 科	28	2.8	29	△ 1	14	3.6	15	△ 1
消 化 器 内 科	72	7.2	75	△ 3	26	6.8	24	2
循 環 器 内 科	60	6.0	63	△ 3	21	5.5	21	0
腎 臓 内 科	35	3.5	37	△ 2	11	2.9	12	△ 1
リウマチ・免疫内科	40	4.0	50	△ 10	9	2.3	11	△ 2
血 液 内 科	31	3.1	31	0	26	6.8	28	△ 2
糖 尿 病 内 分 泌 内 科	65	6.5	68	△ 3	4	1.0	5	△ 1
感 染 症 内 科	16	1.6	9	7	27	7.0	26	1
臨 床 研 修 セ ン タ ー	4	0.4	5	△ 1	1	0.3	1	0
外 科	34	3.4	34	0	22	5.7	20	2
心 臓 血 管 外 科	10	1.0	10	0	8	2.1	9	△ 1
呼 吸 器 外 科	9	0.9	8	1	7	1.8	7	0
整 形 外 科	49	4.9	51	△ 2	28	7.3	27	1
リハビリテーション科	1	0.1	1	0	—	—	—	—
産 婦 人 科	59	5.9	63	△ 4	32	8.3	33	△ 1
形 成 外 科	24	2.4	26	△ 2	21	5.5	16	5
皮 膚 科	51	5.1	49	2	5	1.3	3	2
泌 尿 器 科	37	3.7	36	1	14	3.6	15	△ 1
腎 臓 移 植 外 科	17	1.7	17	0	6	1.6	7	△ 1
小 児 科	39	3.9	36	3	12	3.1	8	4
新 生 児 内 科	0	0.0	0	0	25	6.5	27	△ 2
眼 科	126	12.5	128	△ 2	15	3.9	17	△ 2
耳 鼻 咽 喉 科 ・ 甲 状 腺 外 科	28	2.8	35	△ 7	6	1.6	7	△ 1
放 射 線 治 療 科	21	2.1	24	△ 3	5	1.3	6	△ 1
緩 和 ケ ア 内 科	5	0.5	4	1	1	0.3	2	△ 1
脳 神 経 外 科	6	0.6	7	△ 1	3	0.8	3	0
神 経 内 科	35	3.5	36	△ 1	13	3.4	11	2
麻 酔 科	—	—	—	—	—	—	—	—
歯 科 口 腔 外 科	30	3.0	34	△ 4	2	0.5	2	0
放 射 線 診 断 科	60	6.0	64	△ 4	—	—	—	—
救 命 救 急 セ ン タ ー	1	0.1	1	0	11	2.9	9	2
精 神 医 療 セ ン タ ー	12	1.2	13	△ 1	9	2.3	11	△ 2
感 染 症 病 棟	—	—	—	—	0	0.0	0	0
計	1,005	100.0	1,044	△ 39	384	100.0	383	1

(注) 1日当たり患者数の「0」は当該年度内において患者がいたことを表し、「—」は患者がいなかったことを表す。

当年度の1日当たりの患者数は、外来が1,005人と前年度から39人(3.7%)減少し、入院は384人と前年度から1人(0.3%)増加した。

診療科目別の患者数をみると、外来では眼科の126人(前年度128人。対前年度0.2%減)〈構成比12.5%〉が最も多く、次いで、消化器内科72人(同75人。同4.0%減)〈同7.2%〉、糖尿病内分泌内科65人(同68人。同4.4%減)〈同6.5%〉の順になっている。

入院患者では、産婦人科の32人(同33人。同3.0%減)〈同8.3%〉が最も多く、次いで、整形外科28人(同27人。同3.7%増)〈同7.3%〉、感染症内科27人(同26人。同3.8%増)〈同7.0%〉となっている。



当病院では緊急、重篤な患者に対する専門的な治療を担い、病状が安定した後の治療は地域の医療機関が担う「地域医療機関との機能分化・連携推進」に取り組んでおり、平成26年から一部の診療科において原則紹介制外来を実施している。

当年度は、他の病院又は診療所から引き受けた紹介患者は8,277人（前年度8,294人。対前年度0.2%減）、他の病院又は診療所に引き継いだ逆紹介は11,709人（同13,051人。同10.3%減）となっており、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れの影響により、前年度と同様に減少している。また、平均在院日数（入院患者1人当たりの平均入院期間）は10.7日と、前年度（10.9日）から0.2日の短縮となり、新入院患者数は11,993人と、前年度（11,724人）から269人（2.3%）増加している。

### (7) 損益分岐点分析

令和3年度決算について、損益分岐点分析（試算）を行ったのが、第2図である（損益分岐点については、巻末資料3を参照）。

分析の結果、経常費用に占める変動費の割合は37.0%、変動費率は34.1%、損益分岐点収益額は227億8,100万円（前年度221億4,700万円）と試算され、損益分岐点比率は88.0%である。当年度の経常収益259億円は、損益分岐点収益額を31億1,900万円上回っている。

損益分岐点比率については、経常赤字となった平成26年度以降100%を超えていたが、令和元年度から100%を下回り99.5%、令和2年度には83.5%と急速に低下し、当年度も88.0%となっている。これは、新型コロナウイルス感染症患者の受入病床確保に伴う補助金収入に依るところが大きい。

第2図 損益分岐点

